

基本目標 2

子どもと親が健康に暮らせるまちづくり

子どもと親が生涯を通じて心身ともに健康な生活を送れるよう、発達と心身の状況の変化に対応し、保健、医療、福祉、教育などの各分野の連携を図って取り組みます。

主要課題 2 - 1 子どもと親の健康の確保

主要課題 2 - 2 食育の推進

主要課題 2 - 3 思春期保健対策の充実と母性・父性の健全育成

主要課題 2 - 4 小児医療の充実



主要課題2-1 子どもと親の健康の確保

現状

- ・妊娠、出産、育児と一連の流れの中で、母子を中心とした家族全体の心身の健康づくりや育児についての正しい知識の普及、学習の場の設定とともに相談などによる支援が必要です。
- ・乳幼児の病気の予防や早期発見に努め、子どもを病気から守ることが大切です。
- ・育児に関しての不安・孤独感や疲労感を感じている人が、年々増えています。

市民の声

- ・母親学級までいいが、出産後の親の精神面をフォローすることに力を入れる。
- ・健診中とても待ち時間が長く、子どもも大変ですし、親としてもとてもその都度体力を使います。時間をさきに区切って連絡をいただいたり、場所ももう少し交通の便利な所だと本当に助かる。
- ・健診などを行う場所が駅から遠過ぎて不便。駅から近くにすべき（徒歩5～10分以内。駐車場スペースがないなら、近くでないとい子連れで大変である）。

施策の方向

- ・妊娠、出産、育児と一連の流れの中で親子の健康や育児についての正しい知識の普及や、学習の場を設定するなどの支援を進めるとともに、健康相談や家庭訪問の充実に努めます。
- ・疾病、障害や養育問題の早期発見と予防のため、健康診査やその後の保健指導や療育を充実するとともに他機関との連携や家族支援に努めます。
- ・集団健康診査の待ち時間に仲間づくりや地域の子育て支援者との交流等も取り入れ、育児不安の解消等に努めます。

計画事業

- 親子健康教育（P73-2-1-1）
- 妊婦及び乳幼児健康診査（P73-2-1-2）
- 親子健康相談（P73-2-1-3）
- 家庭訪問（P73-2-1-4）
- 予防接種（P73-2-1-5）
- 健診後のフォロー体制づくり（P73-2-1-6）
- 不妊相談の周知（新規）（P73-2-1-7）

主要課題 2 - 2

食育の推進

現状

- ・健康づくりは、子どもの頃から正しい食習慣を身に付けることが大切で、そのためには、親の生活習慣が子どもに与える影響を考え、乳幼児期から親子で健康的な生活習慣を身に付けるようにしていくことが求められます。
- ・子どもたちの間では、朝食を食べないなどの食習慣の乱れや、思春期やせ等の健康問題が生じています。

市民の声

- ・食の安全に関する社会全体の意識。菓子やその他の食品に添加物が当たり前のように入っているが、次の世代を大切に思う気持ちがあるのなら、社会全体で改善すべきだと思う。
- ・幼稚園の給食ですが保育園と同じように給食制度があれば子どもの栄養などの面でよいと思う。

施策の方向

- ・乳幼児期から思春期まで発育・発達に応じた食に関する学習の機会や情報提供を進め、望ましい食習慣の定着を図るとともに、食を通じて健康に暮らせるよう支援します。

計画事業

- 学校における食育の推進 (P74-2-2-1)
- 親と子の食生活体験学習の開催 (新規) (P74-2-2-2)
- 離乳食教室の開催 (P74-2-2-3)
- 栄養相談・栄養指導の実施 (新規) (P74-2-2-4)
- 乳幼児健診の場を通じた情報提供 (P74-2-2-5)
- 保育園における食育の推進 (新規) (P74-2-2-6)
- 食育事業 (エプロンシアター) (新規) (P74-2-2-7)
- 食生活改善推進員の活動支援 (P74-2-2-8)
- 親と子の料理教室の開催 (P74-2-2-9)
- 「成長・発達にあわせたはたらきかけ」冊子の作成 (新規) (P75-2-2-10)

主要課題 2 - 3

思春期保健対策の充実と母性・父性の健全育成

現状

- ・学童期から思春期にかけては第二次性徴を迎え、心身ともにめざましく成長する時期です。同時に、様々な体験を通して達成感を味わい、繰り返し経験することで新たな取組に挑戦し、生きる力を身に付け、自分らしさを形成していく大切な時期でもあります。
- ・近年、学童期から思春期において、喫煙、飲酒、薬物乱用、過剰なダイエット等の問題や生活習慣の乱れが、健康問題としてクローズアップされています。このような現状を踏まえ、子どもたちが自分の心や身体の変化を知り、自分を大切にし、健やかに成長できるよう支援することが必要です。
- ・思春期から青年期にも男女一人ひとりがライフステージを通じて、自らの心身の健康を意識し、新しい生命を感じ、自分とともに「ひと」をも大切にできるような教育・啓発が必要です。

市民の声

- ・今は昔と違い大人だけでなく高校生くらいでも時代に流されているというが「周りがやっているから私も」という人がとても多いし、高校生の「タバコ」はなぜか日常的になってきている。
- ・子どもの小さいうちはまだ親にも悩みを話せるだろうが、思春期を迎えた子どもの悩みを話せる場があったらと思う。学校内でなく家でもない場所に専門のカウンセラーがいてくれたらよいと思う。
- ・思春期の子どもたちの現状をもう少し多くの人々に知ってもらいたいと思う。ケーブルテレビなども使い少年犯罪、薬物、暴走族など、親の多くが知っていれば防げることは本当にたくさんあると思う。

施策の方向

- ・喫煙や飲酒、薬物乱用の防止、健康づくりや性に関する正しい知識の普及などを推進していきます。
- ・学童期から思春期にかけて、精神的な悩みを抱える子どもに対して、相談・支援体制の充実を図ります。
- ・若い男女が次世代の担い手として、自らの健康を意識し、健康づくりができるよう啓発していきます。

計画事業

- 思春期相談体制の充実 (P76-2-3-1)
- 親に対する思春期理解への支援 (P76-2-3-2)
- 学校における思春期教育の充実 (P76-2-3-3)
- (仮称) 思春期心と体の健康づくり連絡会議の開催 (新規) (P76-2-3-4)
- 児童・生徒理解研修会の実施 (P76-2-3-5)

主要課題 2 - 4

小児医療の充実

現
状

- ・乳幼児期は発育・発達などの健康のことや育児面から注意したほうが良いことなど、医療面でのサポートは欠かせません。
- ・安心して子育てをするためには、急病やケガ・事故などに対応できる小児医療体制の充実が不可欠です。

市
民
の
声

- ・鎌倉市は産婦人科や小児科が少ない。また、対応の悪いところもある。
- ・小児医療の充実に力を入れてほしい。特に、待ち時間の長さ、アクセスの困難を解決する。
- ・医療体制の充実を図る。
- ・鎌倉地区は出産できる産婦人科がどんどんなくなっていき、小児科も少なく、夜間医療（材木座）へ行けば、「乳幼児か」と露骨に嫌な顔をされた経験もある。

施
策
の
方
向

- ・小児救急医療については、市内の病院でも、夜間・休日に受診できるようにすることや、県や近隣の市町村及び関係機関との連携により、積極的な取組を進めます。
- ・小児医療費の負担の軽減を図るため、助成に努めます。

計
画
事
業

- 小児救急医療体制の充実（P77-2-4-1）
- 小児医療費助成（再掲）（P77-2-4-2）
- 小児緊急医療支援事業（新規）（P77-2-4-3）
- かかりつけ医の確立（新規）（P77-2-4-4）